

|    | (頁) | (行)       | (誤)           | (正) |
|----|-----|-----------|---------------|-----|
| 一九 | 最終  | 骨ぬきにされた   | 骨ぬきされた        |     |
| 二〇 | 二二  | ポソツと      | 後一行アキに        |     |
| 二二 | 八   | ポソツと      | ポソツと          |     |
| 二三 | 四   | 考えておかなば   | 考えておかなければ     |     |
| 二四 | 後二  |           | 前一行アキに        |     |
| 二五 | 一   | 分遣隊       | 分遣隊           |     |
| 二六 | 九   | 軍人勅諭      | 軍人勅諭          |     |
| 同  | 一〇  |           | 前後一行アキに       |     |
| 同  | 一一  | 勅諭に       | 勅諭に           |     |
| 二八 | 一   | 支那人と呼ぶこと  | 支那人を支那人と呼ぶこと  |     |
| 三二 | 四   | 薛福成       | 薛福成(全集正誤表による) |     |
| 同  | 九   | 感ずる       | 感ずる           |     |
| 三四 | 四   | 自分に       | 自分を           |     |
| 三五 | 九   | 生きもの、俺は   | 生きもの。俺は       |     |
| 同  | 一一  | 手許の雑言     | 手許の雑書         |     |
| 三六 | 九   | 快感を貪った    | 快感を貪った        |     |
| 三七 | 後五  | 茫然たる      | 茫然たる          |     |
| 三八 | 一一  | 茫然たる      | 茫然たる          |     |
| 三九 | 一〇  | もし支那人が    | もし支那に支那人が     |     |
| 同  | 一三  | 同様に、僕が    | 同様に。僕が        |     |
| 同  | 一四  | それは、僕らが   | それは、彼らが       |     |
| 四二 | 六   | 自らの内を     | 自らの内に         |     |
| 同  | 後四  | 胸に描いた     | 胸に描いた         |     |
| 同  | 最終  | 不敏を恥づ。われら | 不敏を恥づ、われら     |     |
| 四三 | 五   | 人を証すも     | 人を証すも         |     |
| 五〇 | 四   | 退くことと、    | 退くこと、         |     |
| 同  | 最終  | 客体として     | 客体として         |     |
| 五一 | 四   | 私の考えは     | 私の考は          |     |
| 五四 | 九   | 大東亜地域     | 大東亜諸地域        |     |
| 五六 | 一一  | 外国文学研究会   | 外国文学研究        |     |
| 同  | 後二  | 問題であるが    | 問題ではあるが       |     |
| 五九 | 二   | 生み出されるべき  | 生み出さるべき       |     |
| 六〇 | 一〇  | 超えられる     | 超えらる          |     |
| 同  | 最終  | であろうか、受け  | であろうか。受け      |     |
| 六一 | 五   | 由々しいものと   | 由々しいものに       |     |
| 七一 | 最終  | 代弁をするような  | 代弁するような       |     |
| 七三 | 八   | 反共産義者     | 反共主義者         |     |
| 七九 | 一   |           | 改行せず次行とつなげる   |     |
| 同  | 最終  | 道は将来に     | 道は、将来に        |     |
| 八三 | 後五  | 一四字目後からヌケ | 「あれは超克派に近い」とか |     |
| 八六 | 九   | 心要を       | 必要を           |     |
| 八七 | 後二  | 論難攻撃され    | 論難攻撃され        |     |
| 九五 | 後三  | フェイスム     | ファインズム        |     |
| 九七 | 七   | ためである……」  | ためである。……」     |     |

九八 七  
 一〇八 一  
 一一〇 三  
 一一一 後二  
 一一三 三  
 同 一二  
 一一七 後三  
 一一九 後三  
 一二一 後五  
 一二四 一〇  
 一二五 後三  
 一二六 一一  
 一二八 一一  
 一二九 後五  
 二二九 後四  
 二二二 一一  
 二四五 後二  
 二四六 一一  
 二四九 一〇  
 二五〇 七  
 二五四 六  
 二五六 二  
 同 四  
 一五八 一  
 一六一 後四  
 一六九 後三  
 一七〇 二  
 一七三 後四  
 一七五 四  
 一七六 二  
 一七七 九  
 一七八 四  
 同 九  
 一八七 九  
 一九一 四  
 同 七  
 一九七 七  
 同 同  
 一九八 六  
 二〇〇 五  
 同 一〇  
 二〇一 八  
 二〇四 一  
 二〇六 後四  
 二〇九 八  
 二二三 一  
 二二四 後三

一つの符合  
 知識さえもが  
 それはほとんど  
 そこに重大な  
 反撃とむすびついて  
 理論づける  
 ことを期せよ、/  
 結果、そうなった  
 進行中の本質  
 しからむるところ  
 としてのその  
 よって相対化され  
 ノートとしてだけ  
 よってではなく  
 思想的地盤  
 代表者として  
 組織力の  
 そしてそのことは  
 感傷的ではない  
 ひどい、したがって  
 あまりに触れて  
 危機を避けて  
 たどつてゐる  
 炭やきについて  
 わけにはいかない  
 度合いだけ  
 解決のしようがない  
 無制限に  
 問題処理を捨てた  
 日本の近代主義  
 「文学的遺産の  
 について、」  
 言語学者の参加  
 この国民にふれて  
 討論の材料  
 日本のような  
 もない、むろん  
 避けたために  
 わけである。「民族  
 歴史事情に  
 浮かび上がらせる

一つの符牒  
 前一行アキに  
 知識さえもが  
 それはほとんど  
 そこに重大な  
 反撃ともむすびついて  
 理論づけた  
 前一行アキに  
 ことを期せよ、/  
 結果そうなった  
 進行中の戦争の本質  
 しからしむるところ  
 前一行アキに、ここから二字下げ  
 後一行アキに、ここまで二字下げ  
 行頭一字下げ  
 としての、その  
 よって自己は相対化され  
 ノートとしてだけで  
 よってでなく  
 思想的地盤  
 代表作として  
 組織力の  
 そしてこのことは  
 感傷的でない  
 ひどい、したがって  
 あまり触れて  
 改行せず次行とつなげる  
 危険を避けて  
 たどつてゐる  
 炭やきについての  
 わけにはいかない  
 度合だけ  
 解決のしようのない  
 無制限に  
 問題処理の態度を捨てた  
 日本の近代社会  
 「文学的遺産の  
 について、」  
 言語学者や、民俗学者の参加  
 この問題にふれて  
 討論の材料  
 日本のように  
 もない、むろん  
 避けたために  
 わけである。(改行、一字下げの後)「民族  
 歴史事情に  
 浮かび上がらせる

同 最終  
二二五 後三  
二二六 二  
二二七 八  
二二八 五  
二二三 八  
二四〇 三  
二四五 一  
二五九 後三  
二七三 一一  
同 一三  
二七六 八  
二七七 後四  
二七八 後三  
二八二 三  
二八四 後二  
二八八 一  
二八九 八  
二九四 二  
同 三  
同 五  
二九九 五  
同 六  
三〇〇 七  
同 最終  
三〇二 九  
三〇三 後三  
三〇七 一  
三一 後二  
三二三 最終  
三三七 四  
三三八 四  
三二〇 一  
三三四 二  
三三五 一  
三三六 後四  
三三九 後三  
同 後四  
三三二 一  
三三五 六  
三三九 後五  
三四〇 一〇  
三四一 六  
同 八  
三四二 四  
同 一一二  
三四三 一

堀り下げが  
ほかのどれも  
だんだんうすれ  
批判の根本要請  
週刊誌が  
くるのでなく、  
ことはない。権力  
そのころはまだ  
掘り出し、  
いまは貧困  
切れ離せない  
いたしますと、「日  
郭沫若  
支那という  
「おれ」とかいう  
それを、実行して  
と女もない。  
日本という  
現れなのだろうと  
で日本の外交政策  
ということ。し  
でありますから、  
ないのです。これも  
鉄鋼の生産  
ことを、おそらく  
関係ないのです。  
帰ってからのちに  
フィリピン  
二度の兵火  
一つのホツペタ  
合わせましょう  
発を結集すべき  
試練にたえる  
議會を否定する  
「気持」ちは  
気持を  
わけはなくて、  
わけではあり  
連記に手を  
合っていないので  
「したからである  
重要では  
戦争体験がもし  
記憶でファシズム  
戦争体験が

後一行アキに  
堀り下げが  
ほかのはどれも  
改行せず次行とつなげる  
だんだんにうすれ  
批評の根本要請  
週刊雑誌が  
くるのでなくて、  
ことはない。(改行 一字下げの後)権力  
そのころはまだ  
掘り出し、  
いま貧困  
切り離せない  
いたしますと、「日  
郭沫若  
支那という  
「おれ」という  
それを、実は、実行して  
も女もない。  
日本という  
現れだろうと  
での日本の外交政策  
ということ。し  
でありますから、われわれとしては、  
ないのです。これも  
鉄鋼の生産  
ことと、おそらく  
関係ないです。  
帰ってのちに  
フィリピン  
二度と兵火  
一つホツペタ  
合せましょう  
力を結集すべき  
試練にたえる  
議會を否認する  
「気持」は  
気持を  
わけでなくて、  
わけであり  
速記に手を  
合っていないで  
「したいからである  
重要で  
戦争体験がもう  
記憶でのファシズム  
戦争の体験が

三四七 四 大筋では動かな  
 三四八 三 方法的には戦争中  
 三五〇 二 含めて近代主義者  
 三五一 九 抹殺ではなく、  
 三五三 四 なんてことは、  
 同 八 知らんけれども  
 同 一四 も少し  
 三五四 本文三 あそこにも「すも  
 三五五 後二一 思っているんです」  
 三五七 質問四 日本文化交流協会  
 同 後三 中国語なんです  
 三六〇 一 なかの一つ……  
 三六一 九 うけているわけで、  
 著者紹介 享年六七歳

大筋は動かな  
 方法的には戦争中  
 含めての近代主義者  
 抹殺でなく、  
 なんていうことは、  
 知らんけれども  
 もう少し  
 あそこはいつも  
 思っているんです  
 日本文化交流協会  
 中国語なんです  
 なかの一つ……  
 うけているわけで、  
 享年六六歳（満年齢表記に変更）